

2024年3月期 第3四半期決算に関する主なご質問

- Q: 異例のアルゼンチン・ペソの切り下げ影響を受けているため、第2四半期から第3四半期にかけて営業利益が115億円から61億円と一見すると大きく減速しているように見えるが、業績が改善傾向であることには変わらないか？
- A: ご理解の通り、アルゼンチン・ペソ切り下げの影響を受けて、当第3四半期の営業利益61億円は、前四半期の為替レートで計算すると99億円となります。ただ、第3四半期は例年季節性により業績が弱めになる上に、今期は欧州の経済活動の減速影響も受けました。このような状況下においてもしっかりと営業利益が出せており、改善傾向は続いています。
- Q: 地域ごとの営業利益は第2四半期から第3四半期にかけて、欧州は改善、アジアは減少、米州は減少となっている。これをさらに事業ごとの利益動向に分けるとどのような傾向となるか？
- A: 建築用ガラス事業は欧州と北米では販売数量が減少傾向でしたが、日本では好調を維持し、南米も販売数量は好調でした。自動車用ガラス事業は全地域で改善傾向でした。
- Q: 第4四半期において、事業ごとの事業環境はどう見ているか？
- A: 事業環境は基本的に第3四半期と大きく変わらないと見えています。建築用ガラス事業は引き続き日本と南米で好調を継続しますが、欧州と北米は事業環境に注視が必要です。
- Q: 欧州は景況感が悪化しているが、今後さらに景気が落ち込むリスクはあると考えているか？
- A: 今後について正確に予想するのは難しい状況ですが、今後さらに大きく悪化するとは考えていません。しかしながら、この状況は第4四半期以降も続く可能性があり、引き続き事業環境を注視する必要があると考えています。
- Q: 欧州の収益性に関して、どのような改善施策が考えられるか？
- A: 詳細は2024年5月に発表予定の次期中期経営計画で説明しますが、コスト構造の改革や、高付加価値製品へのシフトを着実に進めていきます。
- Q: 2023年12月からマレーシアの太陽電池パネル用ガラスの製造設備の稼働が開始したが、収益への貢献はいつから開始するか？
- A: 第4四半期から収益に貢献すると見ており、来期2025年3月期においては通期での貢献が見込まれます。
- Q: 自動車用ガラス事業の販売価格改善交渉はその効果が表れてきているが、今後も価格改善交渉を実施するか？それとも、販売数量回復による効果のみを期待するのか？
- A: 自動車用ガラス事業は改善してきてはいるものの、営業利益率は依然3%と低くなっています。収益性改善には販売価格改善交渉が重要と考えており、今後も引き続き販売価格改善交渉やコスト削減を進めていきます。
- Q: 来期に向けて、アップサイド要因とダウンサイド要因はどう見ているか？
- A: アップサイドとしては、マレーシアの新設備の稼働を含めた太陽電池パネル用ガラスや、日本での建築用ガラス事業および全地域で改善傾向にある自動車用ガラス事業です。ダウンサイドとしては欧州の景気動向が考えられます。